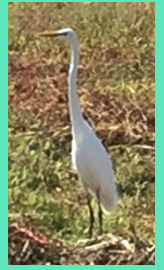




埼玉ワイズメンズクラブ

Saitama Y's Men's Club

今月のテーマ：キックオフ・Change 2022



2022-23 年度会長テーマ「地域と繋がろう・地域を知ろう・地域に知られよう」

- 関東東部部長 工藤大丈 (東京ベイサイド) □ 東日本区理事 佐藤重良 (甲府 21)
□ アジア地域会長 シェン・チ・ミン (台湾) □ 国際会長 K.C. サミュエル (インド)

会長 浅羽俊一郎 / 副会長 上松寛茂 / 書記 水無瀬隆造 / 会計 三浦雄二
直前会長 上松寛茂 / ブリテン 浅羽俊一郎 / 担当主事 小谷全人



会長の挨拶

浅羽俊一郎

8月一杯スイスのジュネーブと国境を接するフランスの町フェルネ・ボルテールに引っ込んでいました。首都圏の慌ただしさを一時的に忘れることができました。また3年ぶりということもあり、彼我の物事への取組みの違いを感じたことが3つありました。(1) コロナ禍の予防対策はありませんでした。ジュネーブの街中、スーパーなどもマスク着用者は100人に一人という感じ。聞いたところ集団免疫に方向転換したようです。(2) 3年前もこちらの自然品志向を感じましたが、さらに進んでいて自然食品店は各地に増え、スーパーでも自然食品スペースが拡張されていました。豆腐に加え、おからもお目見えしました。(3) 家電製品の寿命が日本は



10年ですが、フランスは環境への負荷を減らすため数年前に20年以上に延ばしたそうです。それでも地元の若者たちは行政も業界も地球環境保護はお題目で済ませているのに怒っているとか。また、改めて食品添加物の種類が日本はフランスの5倍以上と、現地の日本人が心配していました。不況から脱出できず、人々の月収も上がらないままの日本は消費者は安く外見がいいものを求め、生産・販売者は長持ちされるより買替えを促すでしょう。(写真はフェルネ町土曜青空市の模様。) ❖

今月の聖句

「だれでも、イエスが神の子であると告白するなら、神はその人の内にとどまり、その人も神の内にとどまります。」 (ヨハネ第1の手紙 4:15)

心に触れた言葉

「80の壁」

水無瀬隆造

この言葉は精神科医で30年に亘り高齢者医療に携わって来られた、和田秀樹教授の近著の言葉です。人生百年時代ですが、健康寿命の平均は男性72才、女性は75才。私は10月5日で81才を迎えました。しかし80才を目前に「寝たきり」「要介護」また「召天」された人々が目につきます。そこで和田教授が提示される今後の生き方をここに紹介します。○医療の「自己決定」それは自分がどう生きるかの選択。○長生きの薬はない。薬は不調時飲む。○運動はほどほどに。散歩が良い。○老いも衰えも受け入れ、まだある機能に感謝する。○「何とかなるさ」は80才以上の幸齢者の魔法の言葉。楽天主義は幸齢者にこそ必要。「老化」より「朗化」が愛される秘訣。○3つのムリを辞める。1) 薬の我慢 2) 食事の我慢 3) 興味の我慢。最後に「80を超えてこれらを心がければ、一生で一番幸せな20年が待ってます」とメッセージを贈られます。80才の壁は超えたが、壁は高いです。この言葉を大切に一日一日を歩んで行きたいと思います。

10月「新米」例会

月例会：10月24日(月) 午後2時～4時

会場：「き咲きてらす」

プログラム：今後の活動を考えよう

* 例会まで体調管理よろしくをお願いします。

「Y'sの今後の在り方を考える」

上松寛茂



まずは、写真を見て下さい。これはYMCA・ワイズメンズクラブ関係の書籍や書類だけを集めたものだ。膨大な資料。我が家の本棚はパンク状態。天井まで積み上げ、捨てるに捨てられない、どうしていいか、逡巡しているところ。ロースターは2007～2008年からのもの。15年前に小生が埼玉ワイズに入会した証しがここにある。

このうち5年間は会長の立場にあった。入会時の正式会員は埼玉Yの担当主事を含めて11人。このうち3人が天に召された。現在の正会員は同7人。平均年齢は70代後半。女性会員はゼロ。少数精鋭というものもおこがましい。

ワイズメンズクラブ国際協会東日本区の1997年の会員数は1246人、2018年は884人とこの21年間で約3割も減少している。東日本区がじり貧状態に陥っている会員数の回復のために出した「Change! 2022宣言」(2020年2月1日)に提示された資料で、2022年には21年前の会員数にまで戻すと宣言している。

高齢化、経済不況、コロナ禍など減少理由は様々だろうが、「ワイズメンズクラブとは何ぞや」、「YMCAとの関係の在り方」が揺らいでいることに起因しているように思う。その大きな一つが組織優先、組織維持のためのあれこれに労力を取られ過ぎていないか。

Y'sの第一義はYMCAのサポーター組織であり、CSR活動がそれに次ぐ。しかしいずれもが貧弱化し、欧米諸国ではワイズとYMCAとの関係が希薄化していると、宇都宮クラブの山田公平メンが、いつか講演で語っていたことがある。

YMCAの発展を願い、支えるために何をしているか、が問われている。YMCAのお荷物になってはいけない。埼玉クラブでは埼玉YMCAと共催で「心のふるさと歌声集会」をCS活動の一環として月1ペースで実施してきたが、高齢女性が大半だったものの、20～30人が浦和センターに集まり、歌声を響かせた。コロナ禍で2年以上休眠したまま。再会の目途さえない。残念なことだ。



2021・2022、2022・2023年度は年会費5万円を3万円に引き下げたが、経済情勢の低迷でさらなる引き下げが求められている。Y'sのこれまでの在り方を根本的に変革しなければその未来は悲惨な結果が待っているように思えてならない。変革すべき事柄についての意見はヤマほどあるが、過激、果ては暴論、異端との受け止めが想定される。それでも機会あるごとに具体的に問題提起していきたい。❖

「客観主義」の罫～ことばがわかる、とは～

浦野都光



例えなどではなく、実際の複数の入試問題に見つけたことである。現代文の試験で、原文の意図を問う記述問題にこのような断りが添えられていた、「あなたの考えを聞いているのではありません」。読者はどう感じるだろうか。主観を排除するためには当然の一言だと思われるか、または私がそうであったように、何かうすら寒いものを感じるか。

「話」を冷静に聞くということが間違いだというのではない。問題は出題者がその先を問おうとしないところにある。私たちは文章の中の意見を「聞く」ことで、相手の足りない視点を補ったり、論理の誤りや証拠の不備を指摘したり、論旨からは十分説明できない現実を提示する。その繰り返しでより中身のある思考をつくりあげようとしてきた。これから勉強を進め、社会を動かしていく若者たちのために、ただの文解釈にとどまらない内容を聞く設問にしてほしい。あなたの意見は聞いていないという表現にはだまって言われたことに従っておれ、という権威の力を感じる。石川巧氏は、これを「客観主義」として批判する。

巷では「読解力の低下」が話題になる。確かにPISAなど国際的な学力テストで日本の学生の読解リテラシーの点数を見ると、確かに、と思う。インターネットの普及や、若い層に目立つSNSのハードユージングも攻撃の矛先になっているが、問題はこのような目に見える事実だけで説明がつくだろうか。情報の処理能力を主に問う受験型の読解トレーニングを行い、インターネットやSNSの指導を充実させれば晴れて解決、となるだろうか。読解力はさきの「客観主義」によって、低下「させられている」のではないか。

文学の扱いについてはどうだろう。新学習指導要領は、「論理的な文章」「実用的な文章」に重きをおいて、文学的文章を排除する方向に傾いている。登場人物の心の思い、生きてきた時代、人生の紆余曲折が目の前で展開される文学に親しむ場を奪う教育は人間に何をもたらさずだろう。あるお母さんが言っていた。読書している我が子に感想を聞こうと話しかけたら、子どもはまるで試験の答えをさがすように文面を懸命に見返し始めた、と。「自分の心には何も残っていないのでしょうか」。文学だけではない、読む行為とは自由な精神の遊び場ではなかったのか。

「お家を出てっちゃうなんて、この奥さんは困った人だねえ」「恋人への想いより国家が大切な時代があったの？しょうがないかも、だけどわからない」「あの早稲田の先生のコミュニティ論は、社会的弱者の都合を考えない楽観論だよ」一読む力に今「主観」を取り戻したい。

この問題を酒飲み話にしたい人へのオススメ本:

* 石川巧著『「国語」入試の近現代史』(講談社選書メチエ、2008)は説得力を持つ、必読の一冊。❖

註) 浦野都光(くにみつ)氏はプロフェッショナル家庭教師で、さいたま市などで小学生から社会人まで国語、英語、物理など複数教科の学習をサポートしており、3月に当クラブで卓話。

関東東部 部大会に参加

10月1日(土)の午前10:30から午後1:30まで、昼休みを挟んで11クラブの有志がオンラインで交流の時を楽しんだ。特に前半はホストの若きベイサイド・クラブらしい問題提起“Somethin’Else”(C. アダレーのジャズアルバムからの題名から)をテーマに「一緒に何か新しいこと始めない？」をグループに分かれて話し合った。場所は異なっても同日同じ活動を目立つように行おう、という戦略。出された様々な提案から何か新しい動きが生まれるか、期待したい?埼玉クラブからは上松、水無瀬、伊藤、浅羽が出席。YVLF参加中の衣笠メン(ユース主任兼主査)は山中湖センターから閉会間際ズームインに成功。(浅羽 記)

(仮称)いつにAction!関東東部
こんなことがしたい!
①決められた日に
②各クラブごとに
③同じ服装で
④ゴミ拾いをして
⑤仲間を増やして
⑥結果をSNS、ブログ、プレスリリースで発信する



衣笠ユース主任と相磯実行委員長

第34回YVLFに思う

衣笠輝夫

今年度もユース事業主任として東京YMCA山中湖センターに来た。東日本区ユース事業に携わって約10年、YVLFに2013年から関わって9年、その間ユースが卒業して社会人に成長していく姿を見てきた。Facebook上で今も卒業したユースと交流がある。今回のYVLFでは大きなターニングポイントがいくつかあったが、その一つに聖日礼拝がある。

ある教会はYMCAで活動する人は主日、教会の礼拝に出ないとの批判があり、ユースを派遣してもらえないが、決してそうではない。野外グリーンチャペルで礼拝をきちんと守ることができる。そのことをもっと知ってもらいたい思いがあるのと、YVLFではこの聖日礼拝をさらに大切なプログラムとして位置付けていく必要性を感じる。



今回はとちぎYMCA総主事塩澤達俊氏が奨励し「青春の日々にこそ、あなたの創造主を覚えよ」このコヘルトの言葉をもっと心に刻み、YMCAが日本に誕生した時、「YMCAは祈りの場所」であったことを思

い返し、共に初心に帰る第1歩とした。

註)YVLFはユースボランティア・リーダーズフォーラムの略。東日本区全クラブの拠出金で運営している。今回は9/30~10/2まで山中湖センターで3年ぶりにリアルで開催。区内9つのYMCAからリーダー28名と5カウンセラー(元リーダー)5名。埼玉YMCAからは所沢センターの新井隼斗リーダー(おすし)が参加。基調講演は小倉哲氏。ワイズからは17名が参加。1日が関東東部大会と重なったのが残念だった。他の写真は最終ページに掲載。(衣笠メン提供)❖

YMCA PLACE

浦和YMCAの小窓から(8月)

クローバークラブでは夏休みにさまざまな特別プログラムを行いました。

*オートテニス

初めてオートテニスに挑戦したメンバーもいましたが、一生懸命ボールを打ち返していました。ひとりのプレーが終わると、次の人が早く始められるようにとみんなで球拾いをしていました。



*夏祭りおやつづくり

チョコバナナ、ベビーカステラ、フルーツあめをつく



りました。同じものを作っている、それぞれの個性が出ていました。家でも作ってみたい!という声があがっていました。

*Big Smile キャンプ @山中湖センター

久しぶりのキャンプでは、ビッグカヌーや虫取りなどでたくさんの笑顔が見られました一方で、さまざまな個性がぶつかり合う場面もありました。そのたびに感情的にな

ったり、自制が難しくなったりすることもありましたが、年長キャンパーが上手になだめ

たり、的確にフォローするリーダーの対応で共同生活の輪が保たれ、最後には「楽しかったね」と大満足の表情で帰路につきました。(水上真帆・石黒成華 記)



埼玉ワイズ、IYC 参加者を支援

コロナ禍で中断されていた IYC が、今夏再開。9月4日から9日までタイの古都チェンマイで開催され、チェンマイ YMCA が協力。埼玉 YMCA 職員の木下遥七さん(20代)も参加者の一人。筆者は当クラブの支援金(47,000円)を携えて9月30日に川越 YMCA に木下さんを訪ね、以下の話を聞いてきた。



参加国は日本の他に11ヶ国から18歳~30歳のユース74名、うち日本からは6名(東5名、西1名)のユースが参加。英語を公用語に6日間共に過ごし、ユースを取り巻くグローバルな課題を話し合い、地元の高校生との交流などを一緒に体験し、友情を育んだ。強く印象に残ったのは積極的に発言したがる他国のユースに比べて日本の参加者がとても消極的

だったこと。(浅羽 記)

* International Youth Convocation (IYC 国際ユース会議) は国際ワイズのユース事業の目玉。一年置きに開催地を変えて行われる。プログラム内容の詳細も運営もすべてユースが自主的に進めるユニークな事業。地域会議 (Area YC) と交互に開催されている。

今後のブリテンの編集について一会長提案

会長方針として掲げているブリテン戦略として読ませるブリテンを考えていますが、具体策が浮かびませんでした。が、メンバーに相談し、他のブリテンや他団体の機関紙を参照する中でいくつか試みたいアイデアができました。

- 1) 1頁に惹きつける記事と写真。例会・イベント案内。内部情報は後方へ。会長挨拶は必要な時だけ。
- 2) 2頁: エッセーのほか、国際性やユース問題などワイズの広い視野と好奇心を売る。
- 3) 3頁: YMCA を紹介。市民団体訪問を続け、連携を図り、ワイズを知らしめる。
- 4) 4頁: 報告は短く、外部にも知らせたい案内は丁寧に。写真ギャラリーを充実させる。
- 5) 1・4頁はカラー、2・3頁は白黒。1回に50部印刷する。

色々ご意見をお聞かせください。(浅羽)

活動統計	出席	会員	ゲスト
8月ズーム練習	7人	6人	1人
8月夜談会ズーム	6人	6人	
8月例会	中止		
9月夜談会	6人		
9月例会	中止		

FOTO Gallery コロナ夏の思い出

上は IYC チェンマイ (木下さん提供)、下は YVLC 山中湖センター (衣笠さん提供)



